

# 学校における一次救命処置に関する一考察

白井 健太 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 中菌 伸二

キーワード：AED 子ども 学校

## 1. 緒言

現在の日本では、毎日のようにどこかで命が失われている。学校現場でも、最近災害が多発していて同じことが言える。過去の学校災害事例で、一番多い死亡事例としては突然死である。しかし、突然心停止になった人に対して AED (Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器) を使用して、電気ショックを与えることができれば救命率は向上する。AED は一般市民でも使用可能になり、設置場所は幅広く、医療機関、消防機関、学校関係、その他の公共施設などに設置されている。誰でも一次救命処置 (Basic Life Support: BLS) ができるように、心肺蘇生と AED の知識や技術を身につける必要があると考える。

また、命の大切さが注目される中、子どもの命の重要性に対する意識が薄れてきていると考える。しかし、日本の小学校学習指導要領では、一次救命処置について触れられておらず、中学校学習指導要領でも触れられてはいるが、詳しく記されていない。従って、一次救命処置の知識や技術は早い段階から必要である。

## 2. 研究方法

次のような文献調査及びインターネット検索により一次救命処置に関する以下のことを明らかにしていく。

- (1) 一次救命処置に関する教育の現状
- (2) 一次救命処置を普及させるための環境
- (3) 一次救命処置の新ガイドライン 2010 に

基づく教材開発へ向けた資料提示

## 3. 結果と考察

- (1) 一次救命処置に関する教育の現状

海外では、日本にはない小学校段階からの体

系的な一次救命処置教育の例が見受けられた。

## (2) AED の普及状況

厚生労働科学研究によれば、2010 年 12 月現在、AED 設置台数は、32 万 8321 台である。その内訳は、医療機関が 67,647 台、消防機関が 9,644 台で、その他を公共施設など一般市民が使用できる AED とすると、約 25 万台になる。

表 1 学校における AED の設置状況

2008 年 ( ) は 2008 年度内の設置予定校も含めた場合の割合

全国の学校	49.1% (67.4%)
小学校	47.6% (72.0%)
中学校	69.0% (89.8%)
高等学校	94.8% (98.0%)

(3) 一次救命処置の新ガイドライン 2010 に基づく教材開発へ向けた資料提示

胸骨圧迫 (C) → 気道確保 (A) → 人工呼吸 (B) などに基づく教材開発が必要である。

## 4. まとめ

AED の設置状況 (2008 年) を学校別で見ると、一番割合が高いのは高等学校であるが、小学校では、既設置校は 50% にも満たない状況にある。小学校の低学年頃から一次救命処置の DVD を見せたり、一人一体の簡易型蘇生人形を用いた授業に取り組んだり、小学生が興味を示す工夫された教材を使用して、より分かりやすい授業を作っていく必要がある。

## 参考文献

文部科学省 (2009) 「学校における自動体外式除細動 (AED) の設置状況調査」について。

日本救急医療財団心肺蘇生法委員会 (2011) 救急蘇生法の指針 2010. へるす出版。